

4 地域学校協働活動への発展に向けて

各市町村においては、これまでも地域と学校が連携・協働しながら、様々な取組を積み上げてきました。

その取組を継続しつつ、地域や学校の実情に応じ、下記の**3つのポイント**を踏まえ、**活動の内容を改善**していくことで、地域学校協働活動へと発展していきます。

地域学校協働活動のポイント

- 目標やビジョンの共有
- 一方向の「支援」から双方向の「連携・協働」へ
- 個別の活動から総合化・ネットワーク化

(1) 目標やビジョンの共有

目標やビジョンを地域と学校が共有することの意味は、**教育責任を双方で分担**するということです。

これまでは、学校の教育目標や学習の目標を具現化するために、地域の方々の力を活用するというスタンスでの支援が主でした。

目標やビジョンを共有することで、地域住民も、**子供たちの成長を支える当事者として主体的に関わる**ようになります。

このことを意識しながら、活動に向けた会議や打合せの内容を工夫しましょう。

宮城県としての共通の目標は、「**協働力**」の育成

- 主体的に考える態度
- 他者を理解する態度
- コミュニケーション力
- 協調的な問題解決力
- 参画意欲

※ P38 8 参考情報 (5)

実践例 ① 地域と学校の連携・協働に向けたワークショップの開催

年度当初に、教職員とコーディネーター及びボランティアの代表を主な参加者としたワークショップを開催する。
※ P28 7 参考資料 (1)

〈ワークショップの流れ〉

- ・ 学校や子供、地域の課題を共有する。
 - ・ どんな子供たちを育てたいか、どんな地域づくりを目指すか。
 - ・ 地域は学校にどんなことができるか、どんなことがしたいか。
 - ・ 学校は地域に対してどんなことができるか。
 - ・ これからいっしょにできることはないか。
- ※ 学校の地域連携担当がファシリテーター役となり、教員とコーディネーターやボランティアが自由に意見を交換できる場をつくる。

学校や地域の課題、子供たちの成長に向けての共通の目標を広く周知

課題や目標を踏まえて、各活動を改善

課題や目標を反映した活動の実施

実践例② 放課後子ども教室の活動計画立案

学校の思いと教室に関わるスタッフの思いをつなぎ合わせて、放課後子ども教室の活動計画を立案する。

〈コーディネーターが聞き取った「学校側の思い」〉 〈コーディネーターが聞き取った「スタッフの思い」〉

- ・ やさしい子
- ・ 誰とでも仲良く遊べる子
- ・ 地域を愛する子
- ・ 地域でしっかりあいさつできる子
- ・ 整理整頓がしっかりできる子

- ・ 思いやりのある子
- ・ 学力の向上
- ・ ゲーム以外の多様な体験
- ・ 元気にあいさつできる子
- ・ 自分の言葉でしっかり話せる子

〈教室スタッフで活動方針を決める〉

- 教室の始まりと終わりのあいさつをしっかりさせます。
- 靴並べや荷物の整理整頓をしっかりさせます。
- 学校の宿題や自主学習に集中して取り組ませます。
- 地域の方を講師に、地域ならではの多様な体験活動を実施します。
- 友だちと協力して取り組む活動を積極的に取り入れます。
- 異年齢のグループ活動を積極的に取り入れます。
- 活動の終わりには、必ず感想を発表させます。

活動方針を踏まえ、活動計画を立案

学校と放課後子ども教室が同じ方向性で子供たちを育成

実践例③ 学校支援ボランティア打合せ簿の改善による目標の共有

学校側が子供たちに身に付けさせたい力を記入し、コーディネーター等がそれを受けて、支援に当たって留意すべき点等を記入するといった形式に改善することで、目指す子供の姿や学習の目標を共有する。 ※ P30 7 参考資料 (3)

〈これまでの打合せ簿〉

学校支援ボランティア打合せ簿	
支援日	平成29年9月8日
支援時間	3校時 10:45~11:30
支援対象	5年1組(24名)
支援場所	5年1組教室
支援内容	家庭科の学習支援 ミシン針のつけ方、はずし方、 直線縫いの練習の補助
支援者	4名 ○○○○・○○○○ ○○○○・○○○○
役割分担	班毎に1名の支援者 1班 ○○○○ 2班 ○○○○ 3班 ○○○○ 4班 ○○○○

学校側が記入

学校側の目標を受け、コーディネーターがボランティアと相談しながら記入

〈改善する打合せ簿〉

学校支援ボランティア打合せ簿	
支援日	平成29年9月8日
支援時間	3校時 10:45~11:30
支援対象	5年1組(24名)
支援場所	5年1組教室
支援内容	家庭科の学習支援 ミシン針のつけ方、はずし方、 直線縫いの練習の補助
身に付けさせたい力	・ミシン針をつけたり、はずしたりできる。 ・ミシンでの直線縫いができる。
支援に当たって	・子供たちにできるだけ自力解決させる。 ・手を添えるなどの支援はできるだけ最小限にし、子供たちの作業を認め、励ます。
支援者	4名 ○○○○・○○○○ ○○○○・○○○○
役割分担	班毎に1名の支援者 1班 ○○○○ 2班 ○○○○ 3班 ○○○○ 4班 ○○○○

子供たちに身に付けさせたい力を共有した支援

(2) 一方向の「支援」から双方向の「連携・協働」へ

地域住民が学校の教育活動を支援するという一方向の支援活動で終わらせるのではなく、**子供たちから地域等への支援**という方向の活動へと発展させることで、地域学校協働活動の視点となる双方向の「連携・協働」の取組につながります。

さらに、地域課題の解決に向けた活動において、「**子供たちの力を生かす**」、「**子供たちを参画させる**」といった視点で改善を図ることで、これからの地域づくりの担い手としての子供たちの育成につながります。

実践例① 学校支援の成果を地域に還元

ボランティアの学習支援による子供たちの学びの成果を、学校内だけに留めず、積極的に地域へ発信する。

〈地域から学校へ〉

総合的な学習の時間において、地域のボランティアが子供たちに地元の踊りを指導し、子供たちが学芸会で発表

〈学校から地域へ〉

学芸会の発表で自信を付けた子供たちが、地域を元気にしたいとの思いから、地域のお祭りで踊りを披露

子供たちの地域活動への参画促進

実践例② 読み聞かせ子供ボランティア(子供たちが支援者に)

子供たちが支援者として、地域の多様な場面で活動を実施する。

読書週間の際に、図書委員会の子供たちに対して、読み聞かせボランティアの方々が読み聞かせの指導を実施

図書委員会の子供たちは、指導されたことを生かして、低学年の教室で読み聞かせの活動を実施

図書委員会の子供たちが、読み聞かせ子供ボランティアとして、隣接する保育所等で読み聞かせを実施

図書委員会の子供たちが、社会教育施設(図書館等)で実施される「読み聞かせ会」に参加し、地域の方々に読み聞かせを披露

子供たちの地域貢献の促進、未来のボランティアの育成

実践例③ 学習の成果を共有

子供たちと地域住民、双方の学びの成果を、学校や社会教育施設を有効に活用して発信する。

公民館の絵手紙サークルの方々の作品を、学校の教育環境の整備の一環で、校舎廊下の掲示スペースに展示 → 地域住民：学習成果の発表の場

興味を持った子供たちを対象に、絵手紙サークルの方々が講師となり、子供絵手紙教室を夏休みに開催 → 地域住民：学習成果を生かす場
→ 子供：地域住民との交流による学びの場

絵手紙教室で作成した子供たちの作品を、公民館の掲示スペースに展示し、地域住民から子供たちの作品へのコメントをいただく。 → 子供：学びに対する意欲付け

学びの成果の共有による地域のつながり

(3) 個別の活動から総合化・ネットワーク化

「みやぎの協働教育」において、県内の各地域では、学校支援活動、家庭教育支援活動、地域活動、放課後子ども教室の運営等、地域住民の参画を得た多様な活動が実施されてきました。

これまでの活動をベースに、**個々の活動を組み合わせたり、活動に関わる人を交流させたりする**ことで、徐々に活動の総合化・ネットワーク化につながります。

実践例① 活動でつながる

実施されている効果的な活動や取組を、対象や場所の枠を超えて、効果が期待される場面に広げる。

〈学校教育支援で〉

読み聞かせボランティアが、毎週、低学年の教室で読み聞かせを実施

〈放課後子ども教室で〉

読み聞かせボランティアが、放課後子ども教室において読み聞かせを実施

〈子育て支援の場で〉

読み聞かせボランティアが、子育て支援活動における親子の交流の場で読み聞かせを実施

〈社会教育事業の場で〉

図書館事業において、読み聞かせボランティアが、地域の多様な方々を対象に読み聞かせ会を開催

活動の広がりによる関係機関や活動に関わる地域住民の新たなつながり

実践例② 人をつながる

活動に関わる支援者を介して、活動を広げ、深めていくことで、新たなつながりや活動が生まれる。

環境教育の講師として、地域のボランティアが地域内の複数の学校で支援を実施

講師の提案で、学習のまとめや発表の情報を、支援を受けた複数の学校で共有

各学校で学びの成果やまとめを近隣の公民館に掲示し、地域に情報発信

講師が関わる地域の環境活動において、子供たちの思いを具現化

人を介したつながりによる新たな活動への発展

実践例③ 場所をつながる

学校に設置された交流スペースにおいて、多様な地域住民が情報交換する中で、連携・協働した活動へと発展する。

〈学校の交流スペースにおいて〉

PTA 役員のバザーの打合せとコーディネーター・ボランティアの打合せが同時に実施されていた。



PTA 役員

学校のお祭りのバザーに商品が集まらない。

コーディネーター・ボランティア

それを聞いたコーディネーターさんが・・・
「町内会、商工会、農協等に声を掛けてあげますよ。」



地域の多様な団体から、バザーの商品がたくさん集まる。

当日のお祭りに、たくさんの地域の方々が集まり、活性化する。

自由な情報の交流を通じた活動の充実と発展



なるほど！

これまでの活動や取組を、3つのポイントを意識しながら改善することが大切なんだね。

5 地域学校協働活動の基盤となる活動の充実に向けて

「みやぎの協働教育」の推進により、各市町村においては、「学校支援活動」、「家庭教育支援活動」、「地域活動」に「放課後子ども教室」を加えた4つの取組を柱に、地域の実情に応じた、特色ある活動が実施されてきました。

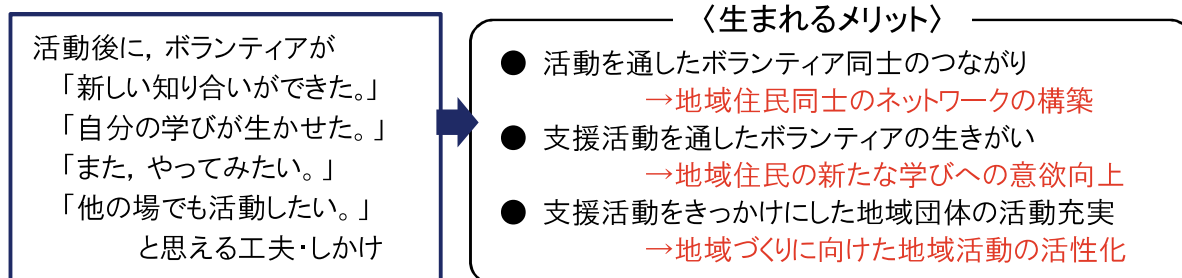
この基盤となる4つの活動を、地域学校協働活動の3つのポイント（※P15）とともに、下記の改善のヒントを踏まえながら、多様で継続的な内容に改善していくことが必要です。

（1）学校支援活動

改善のヒント① 双方にメリットがある支援活動の充実

学校の要請に応じたボランティアによる支援は、学校にとって当然メリットのあるものですが、**支援するボランティアにとってもメリットが生まれる**よう、活動を改善・発展させていくことが大切です。

このことは、**支援活動がボランティアの生きがい・自己実現の場**となり、地域学校協働活動の安定的・継続的な実施につながります。

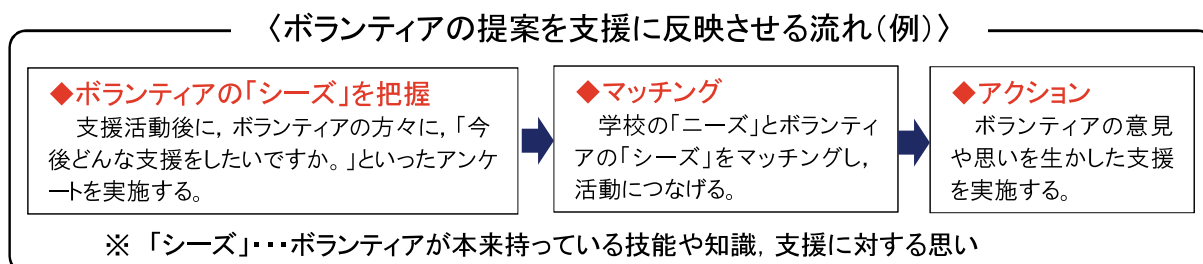


このためには、活動直後に、ボランティア同士がコミュニケーションを図ったり、支援の振り返りをしたりするちょっとした**情報交換の時間と場所**を設けることが有効です。

改善のヒント② ボランティアの提案による支援活動の具現化

学校のニーズに応じた支援も大切な活動ですが、**支援活動を学校における地域住民のボランティアの場**として捉え、学校側の実情に応じて、ボランティアの提案による支援活動を実施することも必要です。

このことは、**ボランティアとして関わる地域住民の主体性・自発性**を育み、活動の充実を図ることにつながります。

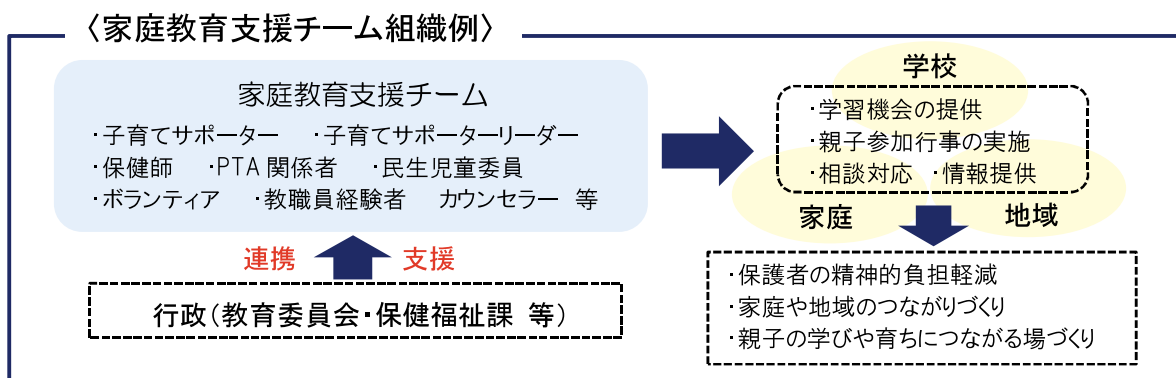


(2) 家庭教育支援活動

改善のヒント① 家庭教育支援チームの組織化

県では、子育てサポーター、子育てサポーターリーダー等の身近で家庭教育を支援する人材を養成しています。

養成された方々の活動の場を広げ、複雑で多様な支援に対応するためには、家庭教育支援に関わる幅広い地域の方々（子育てサポーター・保健師・民生委員等）による**家庭教育支援チームの組織化**を図ることが有効です。



改善のヒント② アウトリーチ型支援の拡充

保護者や家庭等からの支援の要請を待っているだけでは、支援者の活動は広がりません。地域において、保護者や子育て中の親が集まる機会に、**支援者が積極的に出向いて学習機会を提供**することが重要です。

また、家庭教育支援の対象を、現在の保護者に限らず、**次代の親となる中・高校生へも広げていく**ことも必要です。

提供する学習プログラムとして、県では「**親のみちしるべ**」を作成しています。

【親のみちしるべ】 <https://www.pref.miyagi.jp/site/katei/oyanomanabi-index.html>

〈効果的な学習機会の場〉

- 就学時健康診断
- 乳幼児健康診断
- PTA による研修会
- 保育・授業参観
- 公民館等での子育て講座
- 中・高校生の学習の場

〈提供する学習例〉

- 「親のみちしるべ」を活用したワークショップ
- 子供の生活習慣づくり「はやね はやおき あさごはん」に関する講座
- インターネットやSNS等の有害情報対策

改善のヒント③ 親子参加型事業の実施

講座的な学習を通し、親として必要な知識や考え方を学ぶことも重要ですが、子供との具体的な活動や関わりの中で、親としての子供に対する声掛けや対応等を学習することがより効果的です。

親子の交流活動や親子参加型の行事を実施し、そのスタッフとして支援者が参画することで、親子の実情に応じた支援活動が可能となります。

(3) 地域活動

改善のヒント① 子供たちの参画による地域活動の充実

地域づくりを担う人材育成のために、**子供たちを共に地域をつくるパートナー**として、様々な地域課題の解決や地域おこしの取組に参画させることが大切です。推進のためには、学校教育課や地域振興所管課等との連携が必要です。

〈子供たちの企画による地域活動の活性化〉

【地域の課題】 地域のお祭りのマンネリ化・若者の参加者が少ない。

活動の一部を子供たちの企画により実施

新しい発想による事業の活性化・若者の参加者増加

〈子供たちの提案による地域おこし〉

子供たちを対象に「まちを元気にするワークショップ」の開催

「子供たちの提案による地域おこしプロジェクト」の実施

・子供たちをキーパーソンに、多様な地域住民・団体によるプロジェクトチームを組織し、子供たちの提案を具現化

〈子供たちの地域貢献への促進〉「子どもハローワーク」－秋田県大館市－

「子どもハローワーク掲示板」を小・中学校に設置し、地域の企業や団体等の職場体験やボランティア情報を発信

子どもたちは、保護者の同意を得て、学校を通じて事務局へ参加申込み

市内の小・中学生が、学年や学校を越えて、地域の中で体験活動や地域貢献活動を実施

改善のヒント② 防災を核とした地域づくりの推進

地域づくりの推進に当たって、防災・減災活動を核とすることは、有効な手法のひとつとなります。取り組む際に、地域住民や学校、行政等の多様な主体がそれぞれの役割を果たしながら、連携・協働して実施することが必要となるからです。

また、地域が一体となった防災・減災活動を推進することは、**日常的な地域と学校・関係機関等との連携・協働体制の強化**につながります。

〈防災キャンプの実施〉 一県が進める体験型防災教育プログラム

地域の実情に応じて、下記のようなプログラムを組み合わせ、地域・学校・行政等が一体となった防災訓練、体験的な防災学習を実施し、「**地域防災力**」を高める。

【プログラム例】

- 防災マップづくり
- 救急対処法
- サバ飯体験
- 避難所設営・運営体験
- 避難所宿泊体験
- 夜間避難訓練
- 防災ゲーム(防災カルタ・防災ウォークラリー・避難所運営ゲーム)

(4) 放課後子ども教室

改善のヒント① 地域の多様な団体との連携

各地域で活躍している多様な団体と連携することは、子供たちの情操を豊かにするだけでなく、地域の良さに触れる機会にもなります。また、地域の方々との交流が深まり、安心・安全な地域づくりにもつながります。

【連携可能な団体例】

- みやぎ教育応援団登録団体（NPO や企業等）
- 地域の伝統芸能保存会
- 公民館のサークル 等

公民館の卓球サークルの方と卓球を楽しむといった活動もいいね。



改善のヒント② 若い力を生かす

◆ 大学との連携

各大学においては、学生のボランティア活動を推進するための「**ボランティアセンター**」の設置や学生が教室で得た知識を社会貢献活動として地域社会で実践する「**サービスラーニング**」が広がっています。

若い力を生かして、放課後子ども教室の活動をさらに活性化させましょう。

【宮城県の設置大学】 <https://www.daigaku-vc.info/大学ボラセンリスト/北海道-東北/宮城県/>

◆ 高校との連携

県内において、「**ボランティア部**」が設置される高校が増えてきました。高校生が、支援者として積極的に地域づくりに参画しています。

子供たちと年齢が近い高校生が、地域のお兄さんお姉さんとして子供たちと触れ合うことは、活動の活性化につながります。

地域の高校に相談してみましょう。

◆ ジュニア・リーダーの参画

ジュニア・リーダーは、**子供会活動の支援や地域づくりに参画する年少ボランティア**であり、子供たちが楽しめるような若者ならではの遊びのスキルをたくさん持っています。

中高生が中心となっていることから、部活動等で平日の活動は難しいと思いますが、土日や長期休業中にジュニア・リーダーを活用してみましょう。

【各市町村のジュニア・リーダー】 <https://www.pref.miyagi.jp/site/katei/junior-index.html>

改善のヒント③ 放課後児童クラブとの連携

県では、放課後児童クラブとの**一体的な実施（※）**を推奨しています。一体的に実施することで以下のようなメリットがあります。

- 活動内容が多様化し、充実が図られる。
- 異年齢・異学年交流などより多くの子供の中で交流させることができる。
- 放課後の子供たちの活動に関わるスタッフの交流が図られる。

同じ地域に放課後児童クラブが設置されている場合は、可能な範囲で、一体的なプログラムを実施してみましょう。

※ 放課後子ども教室が開催するプログラムに、放課後児童クラブの児童が同じ場所で一緒に参加すること。

6 先進事例から学ぶ

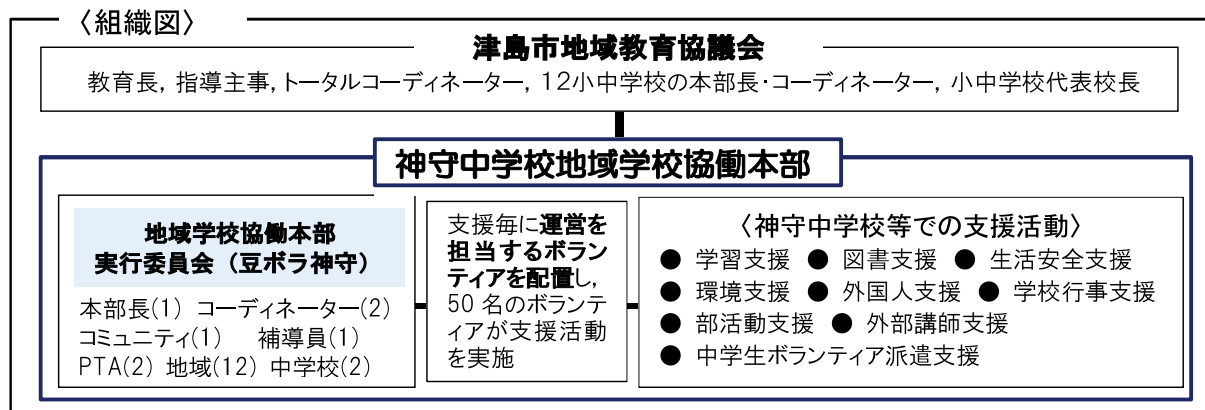
先進事例 ①

まめ かもり 豆ボラ神守(愛知県津島市神守中学校地域学校協働本部)

1 取組の目的・経緯

学校を地域に開き、保護者以外の地域住民の協力を得るため、平成 22 年 10 月に、学校支援地域本部（豆ボラ神守）として発足した。

平成 28 年 7 月から、「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」とし、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子供を育てる体制を目指している。



2 主な取組の概要(平成 22 年度～現在)

● 寺子屋(月テラ・ドテラ)

月曜日の放課後(月テラ), 土曜日の午前(ドテラ)に, 大学生のボランティア, 退職教員を支援者として, 年間各 15～20 回ほどの学習支援を実施している。

中学生の参加者は学校が募集し, 大学生のボランティア募集はコーディネーターが行っている。

地域本部の活動を通して, サービス・ラーニングを経験した中学生が, 大学生ボランティアとなり, さらにボランティアとして携わった大学生が教員となって, 地域の教育力を積極的に受け入れている。 ※ このサイクルができるまで 6 年から 8 年かかった。



〈成果・効果〉

- ◆ 中学生 : 学習意欲の向上, 学力向上, 進路目標の実現, 悩み・不安の解消や心の安定
- ◆ 大学生ボランティア : 教員志望者の指導力向上 ◆ 学習支援スタッフ : 生きがいづくり

● 図書支援(図書ボラ)

平成 23 年度から, 学校で朝読書を実施する上で, 図書室の環境・運営上の課題を「図書ボラ」の支援により解決を図った。

〈図書室の課題〉

- ・ 古い本が多く, 新刊本が少ない。・ 使用頻度が少ない。
- ・ 読書に親しむには雰囲気暗い。
- ・ 開館時間が月・水・金の昼休み10分間

〈図書ボラによる支援〉

- ・ 火・木曜日の本の貸出
- ・ 本のバーコード化(6000冊)
- ・ 本の廃棄(3000冊廃棄)
- ・ 飾り付け, 読書啓発・紹介

〈成果・効果〉

- ◆ 朝読書のスムーズな実施
- ◆ 図書室を利用する生徒の増加
- ◆ 図書室が大人とのコミュニケーションの場



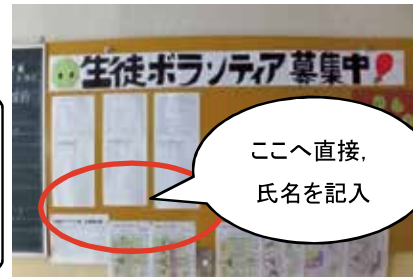
● 中学生ボランティア活動(学校から地域へ)

20年後の地域住民のボランティア・スピリッツを醸成するために、**中学生による地域貢献活動(コミュニティサービス)**を活動に組み入れている。

次の震災に備え、地域の防災・減災の担い手育成という意味においても重要な取組としている。

〈年間延べ220名の生徒が地域ボランティアへ〉

朝のショートホームルームで募集開始を告げると、その日のうちに定員が埋まるなど、生徒は、学校への支援のお礼に学校からも地域を支援したいという思いから、活動に対して積極的である。



〈成果・効果〉

- ◆ 中学生の自己肯定感の高揚
- ◆ 地域の将来への期待感の向上
- ◆ 地域での中学生に対する認識の変化
- ※ 双方にとっての元気の素となる活動になっている。

● その他の支援

学校行事支援<キャリア教育>

大学生等ボランティアと生徒とのしゃべり場の開催

外国からの転入生への日本語指導

増加する外国から転入した生徒への日本語指導を「ドテラ」で実施

不登校支援<「親の会(Be~Heart)」の開催>

元不登校だった中学生の母親が現不登校生徒の家族にアドバイスするなど、同じ悩みをもつ保護者への支援

環境支援

環境支援ボランティアによる校庭の芝生化や植栽作業

生活安全支援

生活安全ボランティアによる「あいさつ運動」「交通安全指導」「校内巡回活動」(警察署、少年補導委員、PTAと連携して実施)

「風と土の会」(先生と地域の交流会)

先生と地域住民の交流・情報交換の場として実施
 「風」…何年かすると転任してしまう先生
 「土」…ずっとその地区に住んでいる地域の人

〈成果・効果〉

- ◆ 学校教育課題の改善(不登校・非行の減少)
- ◆ 地域を継承し、次代の地域づくりを担う人づくり
- ◆ 中学生を含めた住民の地域づくりを担う一員としての意識の向上

3 事務局の設置について

「学校の中に地域学校協働本部をつくる必要がある。」との考えから、**学校の空き教室を活用し、事務局を設置**している。

校内に事務局があることで、学校側の窓口との連携・調整がスムーズに進む。

〈事務局の状況〉

- ・外部出入口のカギ貸与(コーディネーター管理)
- ・365日24時間利用可能
- ・備品等—パソコン、コピー機、携帯電話、水回り、冷蔵庫



【先進事例から学ぶポイント】

- これまでの組織を基盤に「地域学校協働本部」と改名
- 学校の諸課題への対応を地域全体で支援するための多様な支援活動
- 中学生による地域貢献活動への支援
- 校内に、地域学校協働本部の事務局を設置



1 取組の目的・経緯

【平成17年度】

地域住民の心の拠り所である小学校を核として地域教育力の再構築を行うことを目的に、PTA 組織を基に、PTCA 組織として活動を開始

(※ PTCA 組織 - 通常の PTA に、C: 地域を意味するコミュニティを追加した組織)

【平成20年度】

「学校支援地域本部事業」に取り組み、地域と学校の連携がさらに活発化

【平成26年度】

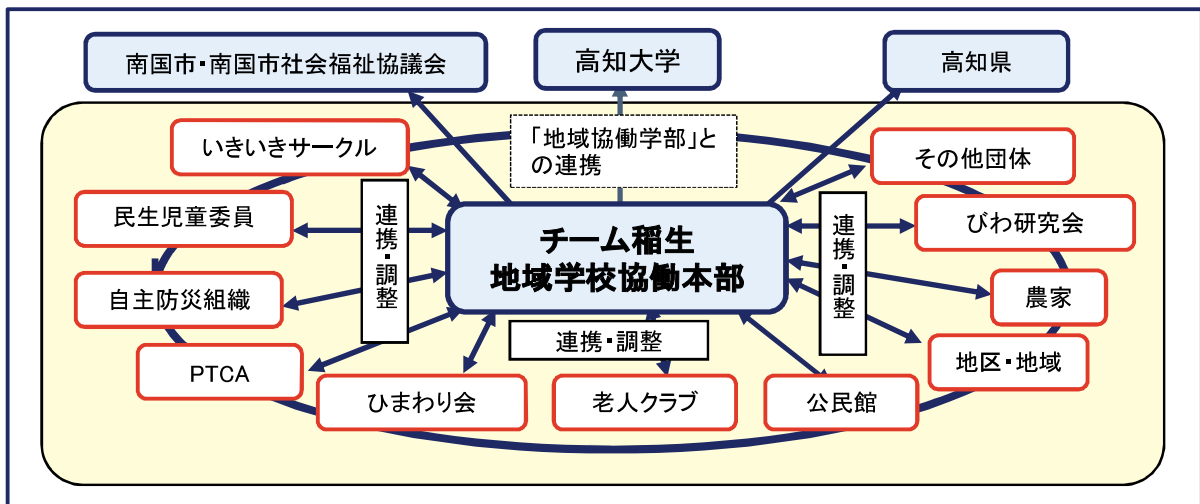
PTCA や学校支援に関わった地域住民が核となり、地域住民同士が互いに支え合い、生きがいのある地域づくりを目的とした「チーム稲生」が発足

【平成28年度】

国が示す「地域学校協働本部」の内容が「チーム稲生」の取組そのものであったことから、「チーム稲生＝地域学校協働本部」として組織化

※ PTCA 組織とすることで、子供が卒業した後も会員の一人として、学校支援や地域づくりに継続して関わることが可能となり、このことが、若い世代の地域づくりへの参画と組織の発足、学校支援から地域支援への発展を目的とした「地域学校協働本部」の設立につながった。

〈組織図〉



2 主な取組の概要

● 食育の推進

ストーリー性のある食育行事に、年間を通して取り組み、それぞれの段階で、多様な地域住民が子供たちの活動に学校支援ボランティアとして深く関わっている。(玉ねぎ・米・芋・ゴーヤ等の栽培活動)



〈玉ねぎの栽培体験〉

<p>苗 植 え 3年生が12月に、苗を植える。</p>	<p>収 穫 4年生が5月に収穫する。</p>	<p>袋 詰 め 5・6年生が重さを量って、袋に詰める。</p>	<p>販 売 6年生が地域の量販店で販売する。</p>	<p>福祉活動 売り上げを福祉団体に寄付する。</p>	<p>玉ねぎパーティー 地域の方を招いてパーティーを行う。</p>
---	------------------------------------	---	--	--	--

活動毎に、多様な地域住民と関わり、全てのことがつながっていることを子供たちは体感する。

● 花育の推進

「花育」とは、花を教材に、生命や個性について子供たち自身が体験的に学ぶ地域と学校が連携・協働した教育活動である。

毎年、様々な花の栽培を通して、心豊かな子供の育成と学校の環境整備が図られている。

さらに、ふるさとの自然保護活動である「蛍の里づくり」に取り組むなど、「花育の輪」は、地域全体に広がり、**学校支援が地域づくりへと発展**している。



● 早朝ラジオ体操

稲生小学校では、毎週の週明けに行われる全校朝礼において、地域の方々が子供たちと一緒にラジオ体操をしている。

「子供たちの姿勢が悪い。」という**学校課題**と、「地域の方に運動習慣を身に付けさせたい。」という**地域課題の双方の解決を図る**取組である。

地域の方々は、朝のウォーキングも兼ねて子供たちと一緒に登校し、朝礼で校長先生の話の聞き、ラジオ体操に参加する。



早朝ラジオ体操

● 絵本の読み合い

月に一度、ボランティアの高齢者と低学年の子供たちによる「絵本の読み合い」を実施している。読み聞かせのような一方通行ではなく、お互いに絵本を読み聞きする。

子供たちにとっては、読書習慣の確立、高齢者にとっては、脳の健康はもちろん子供たちとの触れ合いが生きがいづくりにつながるといった、**双方にとって効果がある活動**である。



絵本の読み合い

● その他の支援

- ・ 防災教育(地域と学校が連携した避難訓練・防災キャンプ)
- ・ 稲生の文化が薫る日(小学校の学習発表会と公民館の文化祭を合同で開催)
- ・ 地域文化の伝承(地域に残るカップ伝説の継承)
- ・ 情報発信(小学校の教育活動の内容を広報誌にまとめて地域に発信)

〈成果・効果〉

- ◆ 学校を核とした多様な活動が地域へと広がり、地域コミュニティの活性化につながった。
- ◆ 地域住民と直接ふれあう多様な体験を通して、子供たちに思いやりや愛郷心が育まれた。
- ◆ 子供たちと直接ふれあう活動を通して、地域住民の地域活動への参画意欲が高まった。

【先進事例から学ぶポイント】

- これまでの組織名に「地域学校協働本部」を追加
- 地域の多様な団体、行政、大学と連携した活動を充実
- 学校と地域双方にメリットがあるような活動の工夫
- 学校支援で培った地域の教育力を地域支援へと発展



7 参考資料

(1) ワークショップシート(例) -地域と学校の目標・課題の共有に向けて-

<p>地域と学校の連携・協働ワークショップ NO.1 テーマ「学校・地域への思いを共有しよう」</p> <p>1 自己紹介</p> <p>2 学校・地域のよさをさがそう</p> <p>(1) 学校自慢</p> <p>(2) 地域自慢</p> <p>3 学校の思いを知ろう</p> <p>(1) こんな学校にしたい</p> <p>(2) こんな子供たちを育みたい</p>	<p>4 地域の思いを知ろう</p> <p>(1) こんな地域になればいいな</p> <p>(2) どんな地域の子供を育みたいか</p> <p>5 それぞれの思いをまとめよう</p> <p>(1) 共通の思いは何か (双方で大切にしたい思い)</p> <p>(2) その中で、地域と学校が連携・協働して取り組むことで実現できるものは何だろう</p> <p>6 ふりかえり</p>
--	---

<p>地域と学校の連携・協働ワークショップ NO.2 テーマ「共通の思いを活動につなげよう」</p> <p>1 前回の振り返り</p> <p>2 共通の思いの実現に向けて、できることを考えよう</p> <p>(1) 学校の現状の取組を見直そう</p> <ul style="list-style-type: none">▪ やってみたいこと▪ やってほしいこと <p>(2) 新たな取組を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none">▪ やってみたいこと▪ やってほしいこと	<p>3 できることを仕分けしよう</p> <p>(1) すぐ取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none">▪ それぞれに取り組むこと▪ 連携・協働して取り組むこと <p>(2) 来年度から取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none">▪ それぞれに取り組むこと▪ 連携・協働して取り組むこと <p>(3) 来年度以降の取組に向けて検討すること</p> <p>4 ふりかえり</p>
---	---

出典:「授業と学び研究所(HP)」